# あんじょうみてあるき

★安祥城跡
（大乗寺／安城町）

今月の案内人
安城町　香村宗利（むねとし）さん（左）
稲垣末弘（すえひろ）さん（中）
鈴木　慧（さとし）さん（右）

## その25 安祥城

歴史博物館の東隣、現在、大乗寺が建っている小山を中心とした一帯には、かつて安祥城というお城がありました。ここは、天下人徳川家康の祖である松平家が、その基礎を固めた場所なのです。

岩津城の城主であった松平信光が、安祥城を占領したのは、１４７１年のことといわれています。信光は、城から少し離れた西の野で踊りを催し、城兵を誘い出すという策をたて、戦うことなくこの城を手に入れました。その後、信光の子、親忠が安祥城に入り、松平清康（家康の祖父）が岡崎城に移るまでの４代に渡り、安祥松平家の本拠として使用されました。

清康が岡崎城に移った後、安祥城は、尾張への前線基地とされました。しかし、清康の死などで弱体化した松平家を尾張の織田信秀が攻め、１５４０年に安祥城は織田家に占領されることとなります。そして、以降10年の間、この城をめぐり幾度となく合戦が繰り広げられることとなったのです。

さて、安祥城の城跡である大乗寺には、その合戦で亡くなった松平家の武将・本多忠高の墓碑があります。碑には、江戸時代に書かれた難解な漢文が記されており、全部間違いなく読むことができれば、碑の下にある亀が口を開け、首を振るという伝説が伝わっています。

10年間の合戦で、この地では多くの将士が亡くなりました。しかし、その子孫の多くは、後の徳川幕府において、大名や旗本になっています。合戦から数百年が経過しましたが、今でもその子孫にあたる人たちが、先祖が亡くなった場所として、城の跡地である大乗寺を訪ねて来ることがあります。そのことから、わたしたちが何気なく生活しているこの土地は、徳川家に縁のある多くの人たちの先祖が眠る、とても大切な土地であることに気づかされます。

安祥城古図
（広島市立中央図書館蔵）

本多忠高の墓碑
忠高は徳川四天王として有名な武将・本多忠勝の父